



里見八犬傳

卷五

709
5



遠門 13
號 709
卷 5



明治三六年
十月九日
購求

南總里見八犬傳卷之五

東都 曲亭主人編次

第九回

盟誓を破る景連西城を囲む
戲言を信て八房首級を獻け

却説安西景連ハ義実の使者をりける金碗大捕と欺死留めて志のび
志のび小軍兵と部人。俄に里見の西城へ牛車と推寄り。その一隊ハ二千
餘騎景連及びうらぐらぐと至る。滝田の城の四門を圍み。昼夜をこらしてこれを
攻む。又その一隊ハ一千餘騎葦戸訥平亦大おふ。堀内貞初が籠る。東
條の城を圍せ。西城一時は攻潰さんといやうなる。ぞ攻登る。その聲乃ち兵
相麻の風は戦ぐ如く勢ひとさく。破竹ふゆり。このと死里見の西城を兵糧
甚く乏し民荒年の役は勞とて催促の後ろほど口呆さるるのこたのまは

恩美のぬふ命と輕に寄りて城屑ともせざる勇士猛率なる死にあらず後六
とまき防戦ふのうら。主客の勢ひ異なり。や兵糧は竭し食せざる
る七日小及べり。士卒はむらむら堪へて夜をく。堀を踏み潛り射殺されし
敵の死骸の腰兵糧を撈取り。僅小饑を充はぬあり。或は馬を殺し。死人乃
肉と食ふあり。其実のこれと患ひ。枚倉木曾次元ホのうら。の士
率隊集合して守る。景連の表裏の武士盟と破り。義小達は奸詐へ今
さういふゆへ及び。このおそく敵はあはれ。彼西郡の衆は。この
西城と攻め。二郡の衆をり。彼が二郡の衆は。このや十二分
勝る。午角の軍は。この徳。五穀。内倉廩
空しく。外仇の大軍あり。甲乙。この。既小究まる。繼
百契會あり。この。敵は。只義實が。この。

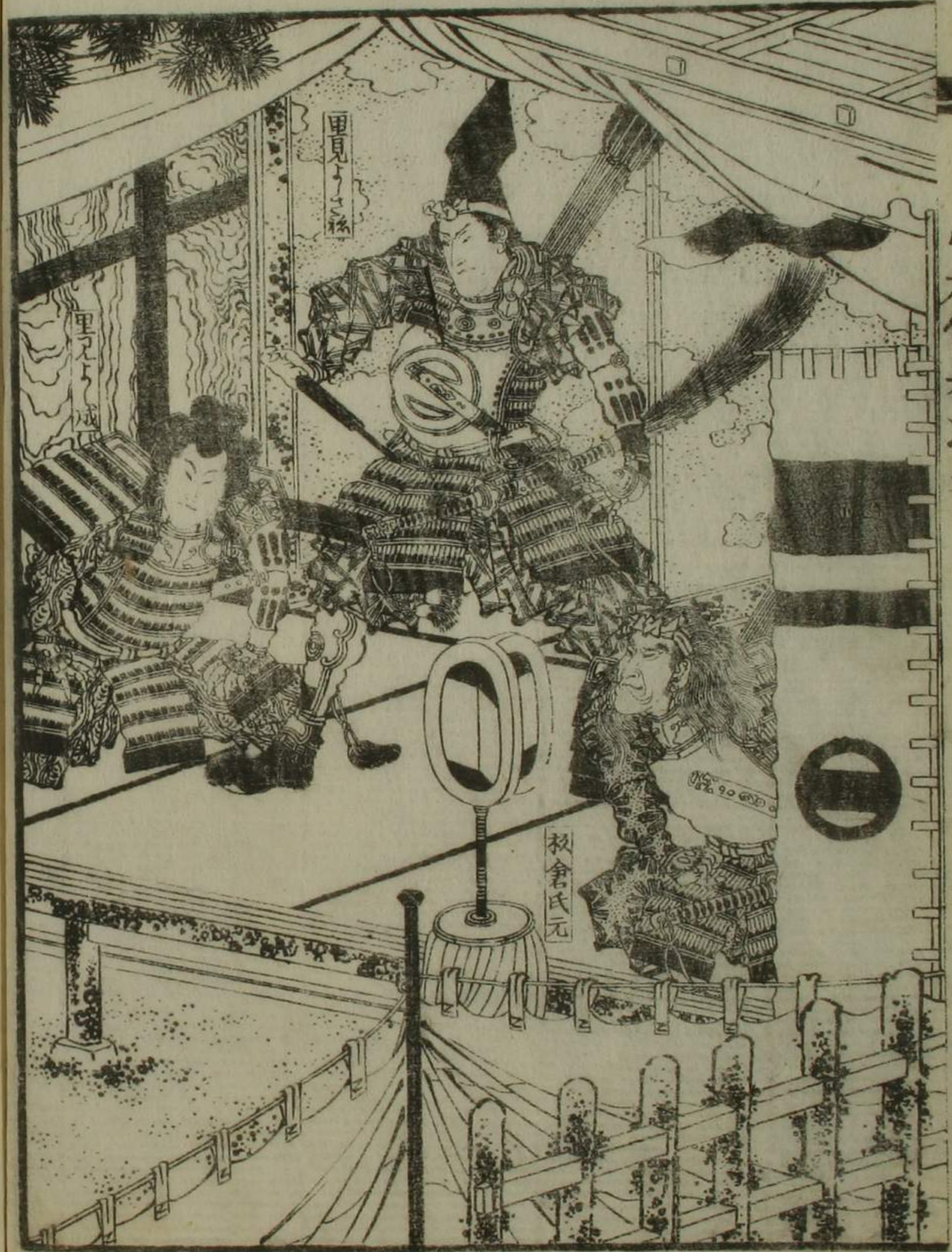
この城中小ありとある。士卒は殺さぬ。今。皆鳥夜小乗。西の城戸より走り去る。辛くも命を全せん。その時城は
火を放く。且も妻子を刺殺し。義實は死す。二郎太郎ととく
る。その術は箇様。と精細に示し。衆皆を。あへは。此
ひ。その。妻子と養ひ。難。且。要せ
只。息の内は。寄りの陣へ夜移し。各ある敵と刺ち。君恩。泉
下。この。願。と。回
義。内。多。兼。け
と。二。十六。の。仁。忠。有
。この。言。果。あ。天。の。利。を

地の利ハ人の和ヲ著クモ城中既ニ兵糧竭ク士率飢渴ニ逼リテ脱レ去ルんと
 多クめりなり併死を究めテ徳小より恩成ありんぞ只その和の致ル所
 人の性ハ善なるをばよりや窮乏の軍兵も其とも善悪邪正ありつらん又
 兵糧小竭れども毎日小煙をこしてさせりて敵なくまでと云ひつけ短兵
 急ニ攻移むざるハ又の武勇ニおそく成てこのやうに成りて討つと死大音
 なるの残擇ク城樓小の不窮乏小對ヒ景連が罪道ノ行状明言を破リ
 恩成仇と不義の軍と起し其その罪成責させりて士率忽地慚愧
 攻戦ハのたろ失なんそのと死城より移りて出口一掃ニ穴大崩さる
 勝むといふとあるべうらむむこの残ハいづらんと言爽小演多ハ衆皆只
 管感佩しく著るべしとまうにゆき義實ハ弑しその声き死め成出
 景連が不義を數へその罪成責させりて日來ハ声よくそのれを餓

絶息つくと城樓ハ高く堀ハ廣ハ腹の筋のよき口を張り面と
 赤ういむらりの罵きとも敵の陣ハ声届ハ果ハ涙ハ死れれてか咳成
 せくのころにバ勞くその功あらずけりさる程又義實ハ懇小脱れ去る
 士率救ふももるとる肺肝を摧めんと輒ク敵と退る謀成ゆらむむ
 疑て其処又至しと杖と曳園ニ出徜徉あるハ年乘愛させりて
 八房の犬ハ主をえんと尾と振々来ふけきと久々餓るること其の跟こと
 右の然りともその鼓吹拊嗚呼汝も餓る軟士率の飢渴を救んと云ふらる
 の三入る汝のくみる智慧ありと教後ハ法度守り礼讓恩義を知る
 のろのく欲成禁め情小成餓く死さる由天命時運とおひり人諦め

かん只畜生ゆへその智慧る。教を受む法度我々も礼讓恩義を辨む。
 欲と禁するよりゆる只その主の養ひ一期と送るのるれが餓て餓るる我
 ゆるる。食を求むるも媚も又不佞なり。現畜生の恥辱を為さむ。
 いと思ふるのるる。人よまたとちの死小あむと壁言大の主を礼儀
 鼻とろくく。礼を弁む。ことら人の及ぶ野性の勝る。所へこれ古款
 みの。心ひるまの。人へなうくる。たりの我あつて小犬の。や。我をよとゆる。慈悲
 和尚の縁とろか不佞。今試は汝の向十年の恩義よくあるや。わ。その恩義知る
 正あつて。寄子の陣へ志のびへ。敵將安西景連。啖殺さむ。が城中乃士
 幸の必死を救ふ。至らん。か。その功第一なり。いふ。このる。よくせんや。
 とうち。厚く笑つ。向も。八房の主の自死つ。とうち。向上て。このころと
 ゆる。が。如く。義実い。よく不佞。か。不。と。又。既。度。背。を。拊。汝。勅。て。功。と。こ。ま。よ。

まつた。魚肉小飽。と。と。室。へ。背。向。小。の。り。て。推。辭。る。て。く。ん。え。く。義。実。の
 執れ。又。向。も。と。又。ま。く。ま。く。ま。く。が。職。を。授。ん。欽。戎。の。領。地。を。完。行。ん。欽。官。職
 領地。も。予。さ。う。と。び。ば。が。女。婿。あ。う。伏。姫。と。妻。せ。ん。欽。と。向。も。い。は。れ。小。こ。を
 八房。の。尾。を。振。り。既。戎。擡。つ。瞬。も。せ。げ。主。の。顔。を。熟。視。く。と。と。吠。く。義。実。を。く。と
 うち。笑。ひ。現。伏。姫。ハ。予。小。の。く。汝。と。愛。さ。る。の。の。た。も。は。な。る。あ。う。と。こ。を。思。ふ
 ら。め。緯。成。る。と。た。女。婿。と。せ。ん。と。室。と。を。れ。バ。八。房。の。前。足。屈。て。拜。さ。る。如。く。啼。声
 悲。しく。ゆ。め。え。ふ。と。と。義。実。ハ。與。盡。く。ある。咄。や。ある。忌。し。う。の。の。我。を。く。と
 わ。が。ら。慢。ち。の。ほ。し。と。む。り。ご。と。と。馳。ま。奥。ゆ。ぞ。入。り。あ。か。て。その。夜。ハ。大。將。と
 士。率。中。の。世。の。名。残。と。こ。思。ひ。決。め。り。の。わ。の。は。義。実。の。膏。の。間。ハ。且。く。後。堂。小
 と。う。ま。う。と。夫。人。五。十。子。息。女。伏。姫。嫡。男。義。成。と。も。め。あ。ね。と。せ。老。堂。も。小。氏
 元。を。成。ほ。と。り。迎。く。百。聚。合。て。ち。ん。盃。を。賜。り。ん。さ。の。長。柄。の。桃。子。の。と。酒。一。滴。も



かのうまゝ水袋のくこも不代者女の枝つたの果子少く出されしをそれゆ大く
 蝕く生平ゆ下司ゆいふととどむおぼし時こりていふと悉く愛し庶
 上殊は蕭々ゆ只四表公表のおくり或は又来しうてやち禪せぬん。最
 期のふへ一言の仰出さるゝてふるもど死を究めたる主後のかのく小勇
 あり。かちとたゆも女士の妻とて子とて黒髪のかたが別致惜あむ音ひ
 こころう。腰に住む虫けしと衣う鮮く濡る袖の外かたぬぬむの
 中推量の女房をいりたる涙の泉堰とあうね。かすど鬱然小沈しけり現
 理りと氏元すいふを音一嗟嘆し。送目と目をあはせれば七日已来一粒も
 食せぬとも人も亦眼ハ凹三頬骨立尚死る程とも士とある顔色憔悴
 枯稿なり。今宵十日の月没く。撃て出んと豫より軍令を兼る。雑兵も也ひ
 多ひは具首彼首集りて酒と稱く酌みかちと水もうつる星の報遣り

袖ひかく霜やがく消るん身はうや又三比ぬちるふける時刻ハよとと長
 実又子ハひもや遣投けけぬ五子伏姫傳の老女専女がのろ共ふふは
 心取くもあうまはる大刀長刀のさやうたる風がひて来る遠寺の撞声緒
 行々常と音ひたる。浩如は外面は犬のろく声考くけり。義実耳成側
 て。彼ハかこくハ房え異かる声ぞ皆ゆさや出てんよと宣へる。義りん
 と意のへも西三入衛と立ち縁頼より指燭を抗ハ房こと喚うけととん
 かうえん。あやたる生きた人首を縁端よりち載くハ房ハ踏石よ
 前足くけつと伴の首を守りてをり。こくいつふとむる。小初るの劇
 悉ひて。善の礼は走ア入り。かるとエをいへと忽率小報知をれが主後男女
 あへど驚たあ中まざるのほ。そが中も氏元ハ彼北軍死えたり。餓て
 人の亡骸を食うも犬のなうひん。ふりて来る首ハ恐れはりのろ

どの。伊達五十子伏 いだけごじふご とまふまふまふ。と追まひひ後とりが再びとんと
 す向。そのものともを養実入さる。とむらぶ六のともむ坊あり。彼のり
 誠なる随又躬方の死骸を傷ひるが。そが終ぬらさ。おれがじ。これみづら
 いおれ。いんといひかけく。とや立身不氏元少のいゆさ。え男房女房散
 勤後。て或入燭を兼く先又立或の主の後。又つた。愈りろ。元縁燭扱。
 と件の頭。試するね。養実入眉根を下。世木曾ぬ竹とろ。え。鮮血。塗ま
 定。ちあ。後。と。景連。は。似。ろ。う。洗。く。く。え。よ。と。仰。ま。ぶ。氏。元。由。亦。辨。王
 る。が。う。淨。子。降。の。ほ。り。へ。と。せ。く。柄。抄。は。水。試。汲。ま。う。け。く。頭。は。塗。う。く。血。を
 つ。編。う。洗。流。こ。と。主。後。又。は。こ。百。派。え。れ。ば。果。く。敵。將。景。連。が。首。級。小。疑。ふ
 づ。も。あ。ら。び。分。明。ろ。う。と。宣。へ。ば。愈。疑。ひ。を。鮮。た。が。う。と。お。ご。その。あ。派。た。る
 とう。わ。を。と。と。人。の。及。ぶ。ぬ。軍。切。は。只。管。犬。を。養。う。り。當。下。養。実。嗟。嘆。く。く。躬

奇怪なるの試る。前象後兆る。た。あ。と。と。今。こ。と。と。ひ。あ。の。さ。る。な。れ。愈。ら。か
 る。又。蜻。蛉。の。命。を。捨。ん。と。と。ひ。決。め。士。率。を。い。く。救。ん。と。と。え。た。る。ひ。ひ。の。慰。み。て
 じ。が。も。む。ら。喬。の。園。へ。せ。ろ。お。の。八。房。か。つ。と。し。ろ。餓。る。派。又。ろ。る。ふ。ゆ。ゆ。と
 彼。と。多。ひ。此。代。憐。み。け。り。寄。ひ。の。陣。へ。あ。び。入。り。く。景。連。を。咬。ひ。殺。し。て。城。中。ろ。る。
 数百の士率を救ふ。至。て。六。日。毎。は。魚。肉。を。飽。せ。ん。と。い。ふ。と。も。飲。ぶ。氣。を。た。ま。し。
 さ。ら。と。い。ふ。呀。領。を。宛。れ。ん。軟。重。職。を。授。ん。軟。と。い。ふ。と。も。飲。ぶ。氣。を。た。ま。し。と。い。ふ。
 つね。ふ。女。を。愛。ま。る。伏。姫。を。取。ら。せ。ん。軟。と。い。ひ。つ。る。と。た。え。八。房。の。軟。け。げ。ろ。の。
 け。り。尾。を。あ。ま。つ。吠。る。声。常。ゆ。あ。く。せ。い。と。忌。し。我。言。ろ。り。た。と。ひ。
 と。と。と。ど。と。い。ふ。と。あ。た。た。め。の。代。慢。ろ。る。と。と。む。ら。り。と。と。と。そ。が。修。道。堂。へ。入。と
 聚。合。最。期。の。軍。旗。又。眠。る。と。そ。の。う。た。を。あ。な。は。り。却。り。ら。し。と。と。然。
 忘れ。後。こ。を。拍。劍。か。虚。言。を。実。の。と。と。寄。ひ。の。陣。へ。潜。び。入。る。と。も。二。三。千。騎。の

大将とて景連と輒く殺し、その首級を齎すとて不思議といふ由あり、あまの
 ろまくと八戸をさう招いたるに近づく。只管賞嘆を多し、氏元亦又さうふ
 駭然とて舌を巻き、畜生めし人よ、此功あるをこそまは君が仁心徳
 義小なるの秋保神明仏陀の冥助ふしと稱賛をかり、招き候の兵
 度門より走り來り、敵は異変のりある、秋猛は乱を騷然し、連は怒り、
 勝利疑ひあるべからず、とさうて、或は實はあつた、さ由あり、人時る程、
 怒てあつたといふに、立て、諸隊は令は傳へさせ、大将みづろ、寄子の陣を亂
 と、良の射者も成さずとて、景連既死し、これハ後寄子の大軍ありとも追
 拂んといと易う。然るに、大入桃く、かさせぬの物体は、口を成ふ氏
 元とさう副ら且、さう足たらん、許させぬ人と、請まじく、度門より走り出
 幸のく、あまの瘦馬は身を跳せ、さうも、さうも、氏元の士率、激し、如此

如此のりあり、さう、景連、後寄子の、大は、かん、出、進め、と、
 三百餘騎を二隊は、さう、ち、長成、前門より、氏元の、後門より、城戸を、颯と、推開せ、
 乱を騷ぐ、寄子の、陣へ、舊地は、突て、入る、勢は、日來、百倍、と、當る、べう、と、あ、
 され、敵軍、さう、と、辟易して、逃亡、は、の、半、さ、び、み、な、と、降、来、さ、し、
 驚愕、さう、つ、人、の、心、も、その、夜、中、か、明、小、けり、か、さ、長成、氏元、の、山、の、て、積、貯
 する、寄子の、兵、糧、は、さう、城、中、へ、とり、入、り、て、則、緯、の、越、城、は、實、は、報、知、な、れ、降
 来、せ、の、の、と、を、悉、釋、さ、し、て、氏元、は、領、も、ひ、つ、今、朝、の、實、小、煙、と、立、て、籠、城
 せ、兵、亦、白、粥、を、さう、小、一、碗、の、外、中、か、さ、さ、久、く、餓、て、食、は、飽、ぶ、急、地、命、を
 價、と、故、に、加、以、彼、兵、糧、の、半、を、散、り、城、外、なる、民、は、賜、ふ、て、さ、う、飢、渴、を、救、ふ、
 拜、受、と、さ、う、領、ち、鼓、腹、して、命、を、延、さ、の、緯、の、為、俸、輟、魚、乃、水、を、獲、る、
 如、か、さ、う、東、條、の、城、を、攻、め、と、さ、う、向、り、さ、う、安、西、景、連、が、老、堂、と、さ、う、戸、納、平

進して件の首級を獻せしは安房朝夷のめどもと召せのひく物敷被せ
 御曹司と氏元ホシ御教書とありて館の西城を守りしもかくて四郡一個
 義實管領より威徳朝日の昇ゆと徳澤の時雨の潤をよと奸民の去去
 吾人の時をゆるり毛よりして夜戸を鎖ぎ又送る我拾ふのほく久後
 志は濱小波風立ざるのしるべ鄰國の武士のつばさる持氏の末子成氏朝臣
 倉へ立ち入りて年束ふるりてこのとた滝田へ書を贈りて一圓平均の
 功業を稱賛し室町將軍へゆめえあけて則里見義実と安房の國主と
 る。刺治部少輔補せらるりゆゆに實欽喜雀躍して京鎌倉へ使
 者を進せし土産糧を獻る。持氏の季子を成成とのいゆる嘉吉三年小長尾昌賢
 ありて成成は鎌倉小居るころのほど康永の年間下総なる許我へ授けし
 是も年序を懐きし年より成成ののり九代親父を承りて下小松を
 べ死すのまもちも統くめり。義実ハどふかくよしのりよかそのとて安

西小糧を乞へと彼如使者遣し金碓大浦ふるり。渠は年るの四り
 けしとも阿容こことひを東く敵と擧とるのなるは欺とて移して
 その勢の多少を討らば親は寄とて柱を可借命を損せし。さすは所
 までもかりまぬるのあはじ。こは不憶土地を闢きし。富貴を受る
 彼が親の資より下り。かむその臨終よその子を長秋の郡司と。東條の城
 主ゆせんといひつるの城のまご果さす加ひ。こがよろし許せしあり
 の死うたてや渠が亡骸も。えりよる死の遺骸。樹を伐草と刈拂ひて
 そが存亡をまかせし。豫て八方へ人を出し。さしたる中。ゆるり
 索さるる。往方へ死をせし。さる程。義実ハ老當士重の勲功を
 びとく。改正。所領を増し。職を進め大方なる。勸賞を行はせし。さ
 るのち。八房の犬と。第一の功と定め。朝暮の食起。外の衾。美を西

まどいへてく。こころは犬養の職を置奴隷野冊けく。物と死ん先と追せ。
 入ると死んち獲らせ寵愛耳目を敬馬せとも八房ハ臥死低尾とあせて食の
 睡らざいぬる宵敵將景連が首級取めて来し縁頼のほとり小室と立も去るべ
 喜ん 主君の生させぬ見せぬ縁端小前足を懸り尾をさす鼻を鳴らし
 こころ ところむるのあるか如し。あつとも養実ハそのすろ死のめりぞひぐらう
 魚肉餅るとと折敷ふささく賜ふけきとも八房ハ入もあつとさるの求
 る頻りえ箇様ののりなかなかのと養実ハ大々小犬のすろ死推量りく
 りこまふやとむせしう急地愛と失ひく。端辺ふ出ぬる大養小して八房と
 遠く牽りく去らせめんと動さすの噂ねひて大養小がふ小後ハ果ハ藤を
 引ぬ離て禁心人を嘆ひ倒し彼縁頼より跳登りく奥よりさる死と彼此と
 なく奔まさとあつともこま死追ハ大養小ハ憚の戸あはる死死死てあつと

あつとよと叫ぶの男子のゆふと乗せ大々噂ねるゆふあは侍女門ハ
 一祥小おそま惑ひの立騒ぎ彼首へまはは是首へ逃此方と追ハ彼方へま
 犬のろた小人もねひく障子蒸襖を推倒し叫び喚つとわりのと小伏姫乃
 とらハ後堂へ追入るこのと死姫ハ用入ゆる書業小尉とりのこ
 枕の草紙を御覽さる小翁丸といふ犬が勅勘を蒙りて捨らる一祥の趣又
 ゆふとさるゆふとさるゆふとさるゆふとさるゆふとさるゆふとさるゆふとさる
 羨昔ハかゝるゆふとさるゆふとさるゆふとさるゆふとさるゆふとさるゆふとさる
 叫ぶ声ハ背後へ走り来りまはりのあつとその疾ど飛をく林に立る筑紫琴を
 横さる小倒しうけて裳の上へ破と吐を吐吐嗟とむりらん入る人ハ是則ハ
 房ハその面魂生平かゝるゆふと病つたるるらんあるらん書業を撫
 やとらるる志あふ小犬の臥と死前足を長杖又突入るさる進退持ハ

不便なり。現は十年畜育て大に育ると積は等しく。ちかき剛くは老犬が厭ふ。なるとたさるるをいふは。後方より引さるるまゝ。頻りに吠ゆる所の専め。こせらる。め。女小扈後女の童もあつて。走る。この為体より。まゆ。うら。敬篤くのま。近つた。引提来る。常のく。席薦を襲。ことら。鼓死叱。このひり。おそく。追まんと。まれば。八房の眼を睜ら。牙と見。踊る。形勢凄。これ。侍女。八常。捨。遠巡せぬ。め。とほ。浩如。養実。緝。ま。志。せ。ひ。けん。短滄。引提。来る。あ。ひ。り。口。小立。く。お。そ。ま。女。の。童。小。叱。退。げ。て。遠。く。進。入。り。中。を。畜。生。と。牛。と。出。く。と。引。提。る。短滄。の。石。簍。さ。ぎ。追。ひ。か。さん。と。志。ぬ。八房。八。此。由。動。く。と。信。と。向。上。て。牙。と。張。り。ま。ま。く。吠。る。声。凄。く。嚙。め。から。ん。形。勢。あ。り。養。実。ハ。勃。然。と。怒。り。小。ほ。ぎ。と。声。を。ふ。り。立。理。と。非。由。を。告。ぐ。畜。生。よ。の。い。ぬ。益。は。似。て。と。愛。さ。る。主。と。ま。り。つ。た。ん。あ。り

は。あ。ひ。ま。り。せん。と。敷。圍。あ。へ。ど。滄。と。り。直。て。突。殺。ん。と。あ。ん。伏。姫。ハ。力。を。看。み。ま。し。め。あ。も。大。人。貴。た。お。ん。力。を。い。つ。る。ま。牛。打。童。小。等。り。て。畜。生。の。罪。状。咎。め。あ。ん。下。し。あ。り。の。物。体。あ。り。の。付。ら。ざ。り。聊。あ。り。由。付。ら。ん。枉。て。あ。り。せ。せ。あ。ひ。後。と。い。ひ。ひ。目。次。拭。ぬ。養。実。ハ。突。う。ける。短滄。を。引。く。杖。異。る。姫。と。諫。言。さ。り。あ。り。と。い。は。い。さ。じ。あ。り。の。あ。り。と。あ。り。の。涙。と。禁。め。貌。と。改。め。い。と。憚。あ。り。と。あ。り。と。今。昔。由。和。も。漢。也。か。ら。れ。君。の。政。事。功。あ。り。必。賞。あり。罪。あ。り。必。罰。あり。の。功。あ。り。賞。あり。と。罪。あり。と。咎。あり。の。功。亡。び。は。あ。り。あ。ん。壁。言。の。犬。の。如。死。功。付。と。由。賞。あり。と。罪。あり。て。罰。成。業。る。不。便。由。ハ。あ。り。と。い。は。い。養。実。ハ。あ。り。と。あ。ん。才。が。異。見。甚。く。あ。り。剛。敵。頭。は。滅。し。り。犬。の。為。不。職。を。置。食。の。珍。饈。美味。と。與。へ。爾。錦。綉。綾。羅。と。賜。ふ。か。て。由。その。賞。と。い。は。い。と。結。と。あ。り。の。或。は。搖。論。言。汗。の。如。く。あ。り。と。出。て。入。ら。ぬ。喻。は。あ。り。又。君。子。の。

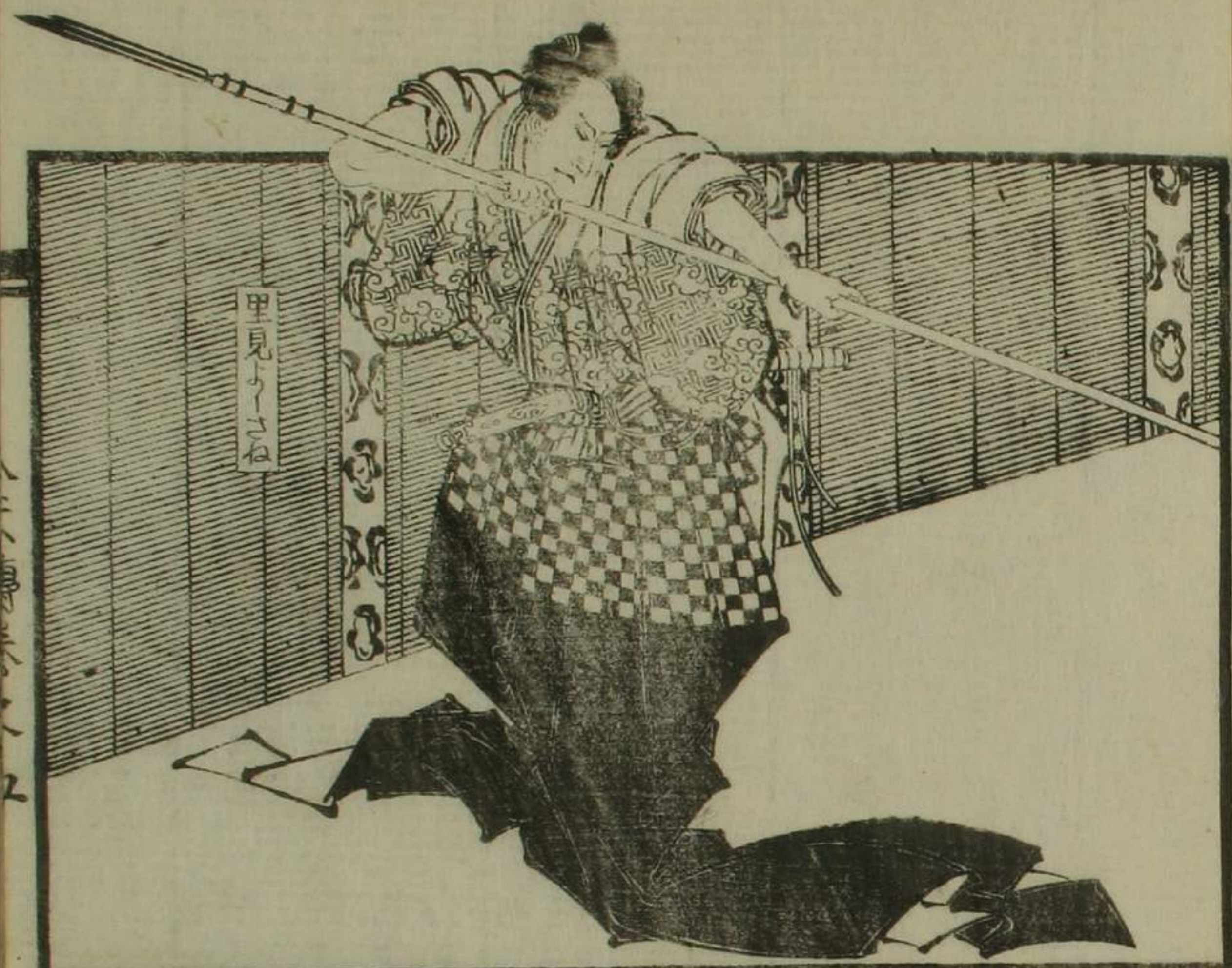
美建怒
八房を
追入る



伏姫

ハツ房

援事置昔高辛氏有犬戎之寇。帝患其侵暴而征伐不克。乃訪慕天下有能得犬戎之將。吳將軍者賜黃金千鎰。邑萬家。又妻以少女。有畜狗。其毛五彩。名曰槃瓠。下令之後。槃瓠俄頃銜一頭泊闕下。群臣怪而診之。乃吳將軍首也。帝大喜。且謂槃瓠不可妻之。以女。又無封爵之道。議欲報之。而未知所宜。女聞以為皇帝下令不可違信。因請行。帝不



甲見

得已。以女妻槃瓠。槃瓠得女。負而走。入南山石室中。險絕。人跡不至。經三年。生六男六女。槃瓠因自決妻好色衣服。製裁皆有尾。其母後以杖白。帝於是迎諸子。衣裳彌斑。言語侏儻。好入山壑。不樂平曠。帝順其意。賜以名山廣澤。其後滋蔓。號曰蛮夷。令長沙武陵。蛮是也。又北狗國。人身狗首。長毛不衣。其妻皆人生男。為狗。生女為人。云見五代史。

一言ハ駒馬由及びくじと聖経ニありと云ん物の本由も引く侍る悲しむ人
 景連と討滅し。主率の餓と救へるこの八房を皆さし。この人を許し。あふふ出
 とも。假令その王苟且のち裁き。又すまはしとも。下さび約束を多し。人出
 くる。かど。言も及び。かま。不。犬。か。を。ま。う。恩。賞。の。君。が。随。意。許。さ。せ。る。所。に。た。り。
 渠大功をあら。及びく。輒。は。約。を。棄。れ。代。る。山。海。の。英。味。を。賜。ひ。又。綿。袴。の。衣。
 金。銭。多。く。く。足。ち。ん。と。せ。り。人。も。か。朽。を。く。根。く。也。い。ち。も。え。言。
 生。ゆ。く。人。も。た。大。功。ある。も。又。その。賞。も。く。く。の。成。許。さ。せ。る。ひ。由。皆。前。世。の
 業。報。と。思。ひ。決。め。り。團。の。為。後。の。世。の。業。を。せ。る。子。を。生。る。が。う。玄。聖。道。へ。侶。せ
 て。由。政。道。は。偽。り。の。ち。た。り。く。我。民。不。幸。じ。く。也。う。け。く。豊。け。く。治。め。る。は。盟。と
 破。り。約。不。報。き。彼。景。連。と。何。と。の。く。異。り。り。て。入。り。さん。や。い。と。清。く。あ。る。と。う。る
 子。の。鼻。の。先。る。智。恵。の。海。も。濁。ら。ぬ。バ。ト。を。ち。ち。く。は。海。死。難。死。ハ。この。面。と。公

く。み。く。い。ふ。の。人。恩。愛。を。る。の。義。を。お。く。く。の。眼。も。く。く。子。と。く。親。も
 業。も。く。く。異。類。不。後。の。女子。ハ。大千。世界。我。索。て。も。く。く。外。ハ。信。じ。と。か。た。口。説
 の。袖。の。上。も。落。く。た。が。く。唐。帝。の。玉。の。く。の。と。來。る。秋。る。べ。美。実。ハ。黙。然。と。坐
 して。母。は。嘆。息。して。引。根。槍。を。憂。哩。と。捨。鳴。乎。悵。乎。あ。や。ま。ち。ぬ。法。度。ハ。上。乃。制
 する。呀。上。ま。づ。犯。く。下。犯。と。是。大。乱。の。基。本。する。く。く。實。ハ。八。房。ハ。姫。と。の。公
 る。く。な。く。と。く。く。云。と。い。ひ。つ。る。く。彼。と。我。口。ち。ち。出。て。耳。は。入。る。菡。相。如。が。勇。を
 け。く。夜。光。珠。ハ。と。り。か。く。ま。も。返。く。く。た。ハ。口。の。過。現。禍。の。門。ハ。外。大。ハ。く。の
 仇。り。き。ま。つ。く。ま。つ。く。來。く。成。ち。り。く。前。家。の。死。も。あ。く。く。この。子。が。幼。稚。け。し
 時。立。願。の。為。昏。や。く。小。劍。崎。の。石。室。へ。あ。く。世。その。途。小。老人。あり。伏。姫。を。ん。く。さ。く
 招。た。この。輝。見。が。病。なる。夜。と。あ。く。日。と。あ。く。む。つ。る。く。みる。惡。灵。の。祟。小。よ。る
 こそ。我。妻。細。く。現。明。せ。く。天。機。と。漏。さ。の。か。そ。ま。あり。伏。姫。と。い。ふ。名。小。より。て。み。づ。く

機さるべし。おろろやましく思ふ。世といひつけと名報む。頼次掩て、城多ふ。其
 實頼次も、点尻通めど、いり色。遠く異邦を考へ、高辛氏の繁敷る
 ところ。今この患は、又于宝が、搜神記の太古のとれた大人あり。遠征して、今
 頃、妻の世をまかりて、只ひとり、女の子あり。年々、二八と成えり。又その
 家、牡馬あり。わけて、女の子、旦暮、親慕、いふ、あま、件の馬、よ、う、う、
 對ひ、は、い、久、久、人、成、衆、を、り、て、ゆ、り、牙、バ、コ、ガ、方、を、ま、う、ま、と、べ、と、い、ひ、これ、を、信、て、
 彼、馬、の、鮮、氣、お、と、と、び、る、る、と、ぬ、叔、口、來、存、る、ま、ふ、果、と、く、馬、の、又、成、衆、せ、
 還、る、と、か、て、嘶、て、乞、求、る、と、あ、る、が、れ、い、久、怪、ま、て、女、兒、は、向、バ、如、此、の、い、ひ、あ、る、と、
 答、え、う、ち、も、あ、り、べ、た、ら、ぬ、が、な、ら、び、と、い、ひ、久、の、竊、り、馬、を、殺、し、皮、剥、し、と、簷、は、掛、
 へ、る、と、當、下、女、兒、ハ、馬、皮、成、え、り、と、畜、生、ゆ、り、人、は、求、構、し、報、へ、い、ふ、早、う、ら、び、や、
 皮、小、なる、ま、て、も、る、の、吾、情、を、要、る、や、い、ふ、と、罵、る、バ、その、皮、撲、地、と、落、か、る、と、

女を懸と推包と、楓と吹上る風とも、小中天、肉を登り、次の日、庚の東の樹、小その亡
 骸と掛り、死その屍より、虫は、母、是、蚕、え、と、い、ひ、こ、の、信、が、た、ら、ぬ、れ、た、唐、山、の、
 魏、晋、よ、ま、い、ひ、り、と、傳、へ、小、説、に、彼、苟、も、る、成、命、せ、約、は、背、る、の、ま、た、ら、ぬ、と、い、ひ、
 殺、し、入、め、り、と、あ、る、獸、は、か、ま、る、り、め、い、と、い、ひ、も、一、時、の、怒、は、棄、し、と、亦、八、房、と、殺、し、
 彼、搜、神、記、に、載、ら、ま、る、大、古、の、人、は、ま、り、ま、た、ん、と、い、ふ、ま、り、ま、た、の、こ、う、て、
 成、氏、元、末、の、諸、の、城、を、守、れ、と、い、ひ、る、比、より、彼、如、へ、遣、し、又、貞、行、ハ、長、挾、る、の、東、
 條、の、城、よ、あ、る、と、い、ひ、る、の、外、ハ、内、の、の、成、相、彈、づ、も、あ、る、と、好、む、互、由、心、を、と、
 今、ち、や、さ、ひ、決、め、り、と、い、ひ、る、八、房、は、ま、り、ま、た、ん、と、い、ひ、命、せ、り、と、い、ひ、
 汝、が、勤、積、高、ま、る、伏、姫、を、幽、居、を、な、り、且、く、退、出、と、い、ひ、
 い、ま、が、一、身、ハ、八、房、ハ、つ、く、と、主、の、乳、色、を、見、り、て、や、中、や、み、を、と、起、し、
 外、面、へ、い、と、徐、や、み、お、く、ゆ、く、

現と申さん。あやたれ物ごとくせしとて。賜りしより身を放さぬ。その水晶の念珠も。
 数々の玉の文字ありて。仁義礼智忠信孝悌と続きて。この文字も彫り
 わる。又漆しと書けり。なるほど自然と生じ見られん。年来日來心小觸
 こころも磨滅せしとて。小景連を滅びしと見ゆ。りるく。又竹を仁義の
 八字ハ蹟るく。たつとて。異なる文字小るる。なり。この比より。八房ごとく。又
 懸想をたつ小るん。こころの不思議なる。過世又定る業報歎と歎くハ
 きのふけの。またとて。その期と俟て死なむ。と。思ひいひ。を遍く。あやたれ
 と。あやたれ。否この世より。悪業滅せし。後の世は。浮む。と。か。い。ん。ん。
 あじの。山。よ。ち。花。の。みの。なる。果と神と親と。不仕せん。の。状と形。の。死。浮。世。の
 杖。あ。ひ。けり。されら。の。り。成。か。く。と。時。を。あ。り。ん。恨。も。忽。地。散。て。る。く。は。
 る。ひ。終。さ。せ。ぬ。らん。さ。も。十。あ。り。七。年。の。ん。慈。愛。と。他。不。せ。子。子。と。子。に

あ。い。ご。前。世。の。怨。敵。か。ら。め。と。思。食。く。今。自。前。不。思。義。と。後。海。島。當。た。り。あ。ん。ん。
 有。む。ろ。う。受。辱。恥。辱。へ。又。ま。れ。来。ん。世。の。め。え。と。墓。を。く。頼。む。弥。陀。西。方。佛。の。御。ま。り。
 糸。流。尾。花。が。下。小。舟。を。置。と。も。竟。不。思。業。消。滅。せ。ば。後。や。と。果。は。ん。口。に。
 し。死。の。の。の。と。許。さ。せ。ぬ。と。さ。し。せ。ぬ。不。殊。教。の。上。不。ふ。る。波。波。教。
 そ。い。ご。い。百。八。煩。惱。の。迷。ひ。解。ぬ。母。君。の。疑。い。げ。又。顔。も。ち。熟。視。さ。す。と。あ。る。
 り。の。の。初。り。如。此。と。親。を。か。の。と。告。め。ぬ。什。麼。の。殊。教。不。願。せ。ぬ。
 なる。文字。と。同。く。の。義。實。此。と。取。り。て。ち。返。し。く。と。こ。こ。と。嘆。息。し。五。
 十。子。多。ひ。後。又。仁。義。礼。智。の。文字。の。消。え。顯。き。て。る。ハ。如。是。畜。生。世。度。甚。は。提。心。の。ハ。
 字。も。り。毛。小。う。り。て。又。あ。ん。八。行。五。常。ハ。人。ハ。あり。菩。提。心。ハ。一。切。衆。生。人。畜。上。ま。あ。
 あ。う。さ。る。は。か。い。ハ。姫。が。業。因。也。今。畜。生。不。道。す。と。菩。提。の。道。へ。こ。け。へ。ん。後。の。
 世。に。こ。こ。と。く。め。寔。ハ。貧。賤。榮。辱。ハ。人。か。の。く。その。果。あ。る。姫。が。三。五。乃。春。れ。

比。鄰國の武士はさうえ彼此の大小名戒への為のぬ小姓縁と暮れ上
 たる。幾人といふる。或はこれに一切義利を今茲に金碗大浦を東條城主
 中。伏姫を妻せて。功あるまの賞以侍。自殺せし。孝吉小剛を。心ひ
 つ。言過夫。畜生は愛女を許さず業あり因る。五十子の義実を。心ひ
 との。さひひ。只この珠数の文字。或は。みんぐ。笑り。ひ。後。と。叮嚀。心
 慰め。鏡。多。も。晴。ぬ。袖。の。両。燈。ひ。声。曇。ま。じ。泣。あ。か。く。あ。ん。た。と
 る。後。伏。姫。今。宵。あ。んと。その。准。は。と。ぞ。い。そ。ぐ。い。ふ。ま。さ。う。紅。と。も。は。生。て。の。み。な。り
 くる。ま。ん。と。さ。ひ。ひ。か。け。ど。只。この。終。中。と。空。ひ。く。玉。横。際。と。り。捨。く。白。小。袖。の。ミ
 龍。衣。被。く。件。の。珠。数。衣。領。は。掛。料。紙。一。具。と。法。華。経。一。部。外。小。物。を。お。せ
 る。と。お。ん。送。り。あ。後。者。な。ご。も。か。く。辞。ひ。く。俱。ひ。の。ま。さ。う。何。れ。と。い。は。さ。う
 後。も。八。房。が。ゆ。隨意。い。や。た。く。苗。は。あ。た。と。日。多。死。と。う。ち。あ。ら。う。へ。な。を。被。り

ま。我。立。も。ま。う。む。今。宵。を。さ。さ。ぬ。命。と。と。思。ひ。決。め。く。出。る。時。を。黄。昏。辺。る
 べ。さ。む。び。あ。ん。母。五。十。子。の。い。と。別。の。惜。け。さ。立。ち。わ。く。老。多。袂。を。披。と。免。喫。く。ま。く
 泣。多。く。年。來。使。ま。な。侍。女。們。由。是。首。被。首。小。泣。倒。是。伏。流。之。物。の。要。求。立。り。の。ほ。
 さ。房。は。伏。姫。共。は。消。を。ん。露。霜。は。袖。ぬ。さ。と。と。村。肝。の。ま。う。つ。よ。げ。は。母。君。を。
 慰。め。く。別。を。告。侍。女。們。は。送。り。ま。く。外。面。へ。出。る。人。が。日。へ。た。暮。て。後。園。乃。柑。回
 漏。る。月。さ。や。う。ち。も。既。小。く。八。房。の。縁。頭。の。下。小。を。り。姫。人。の。出。さ。せ。る。み。己。前
 よ。う。ま。は。い。は。待。る。る。べ。當。下。姫。の。彼。犬。の。尾。と。り。近。く。う。ち。對。ひ。や。八。房。致。し。け。る
 へ。且。人。小。美。賤。の。差。別。あり。婚。縁。へ。その。分。は。隨。ひ。み。ち。敷。成。り。て。友。と。せ。り。か。れ。ば
 下。の。下。さ。ぬ。ち。の。微。も。と。見。と。い。か。と。い。く。も。畜。生。を。良。人。と。妻。と。せ。ら。る。例。成。ゆ。じ
 況。て。や。吾。侪。八。國。主。の。女。見。平。人。の。婦。と。な。ら。う。は。さ。う。成。今。畜。生。小。力。を。棄。命。と。せ
 と。と。く。ま。さ。ら。う。の。前。世。の。業。報。致。併。嚴。君。の。御。錠。を。た。よ。う。と。ん。さ。ら。の。う。り。致

らんとく。又勢を敵に小血戦し。後者亦皆終せしむ。と云ふ。今乃てと云ふ
 虎口を脱せり。やうや瀧田へ立ち上る。小安西が大軍を満す。そや攻圍む最中
 ろ。城へ入ると。竟にかたのむ。せらる。堀内貞初は二臂の力を盡せん
 と云。東條へまゐり。小彼知もせ戸納平ホが大軍を圍れ。釜中の多小異
 ち。後。輒く城へ入る。由あら。か。と。と。瀧田。一騎。た。り。も
 敵を殺し。城の橋を枕ゆ。討死をせ。し。今。悔。も。その甲斐は
 大事のちん使を損。刺主君の先途は立。や。西城の圍釋。君
 恙。ち。り。も。と。も。その。と。死。行。の。面。目。あり。と。と。糸。入。る。べ。死。せ。戸。が
 陣へけ入。戦死せんと。只管小早。を。み。づ。う。推。詰。め。て。や。ひ。え。は。か。う。
 つか。む。と。数。百。騎。なる。敵。軍。へ。け。向。ひ。鶏。卵。を。り。く。石。を。壓。ま。は。
 と。下。り。と。墓。た。た。た。所。死。命。を。捨。る。も。敵。は。損。た。り。賜。方。は。五。五。五。五。死

る。の。是。は。長。彼。以。不。忠。た。る。べ。西。城。素。より。兵。糧。乏。し。鎌。倉。へ。推。索。し。成
 氏。朝。臣。へ。意。致。告。援。兵。と。乞。は。し。敵。我。拂。ひ。厄。を。釋。は。り。恨。を。り。寛。る。
 因。が。と。れ。よ。ま。の。め。の。あ。か。い。速。に。鎌。倉。へ。赴。む。と。尋。思。ひ。白。濱。より。使。船
 ち。日。ち。び。管。領。の。所。所。へ。来。り。美。実。の。使。者。と。稱。し。来。由。を。説。き。急。を
 告。ぐ。と。救。ひ。致。さ。す。せ。ど。美。実。の。書。翰。も。も。狐。疑。せ。れ。て。又
 整。び。又。い。づ。う。小。日。を。こ。ひ。甲。斐。た。り。安。房。へ。立。上。れ。の。景。連。を。滅。び。と。
 一。回。既。に。平。均。せ。り。と。あ。ら。と。い。ふ。と。い。ふ。ゆ。ゆ。帰。途。の。使。は。し。り。と。て
 今。さ。う。腹。も。切。ら。し。と。時。節。を。俟。て。この。條。の。懈。怠。を。勸。解。せ。り。ん。それ。ゆ。ゆ。の
 隱。宅。ゆ。と。く。舊。里。か。つ。こ。上。懸。る。天。羽。の。園。村。へ。赴。り。外。祖。一。休。が。親。族
 たる。百。姓。某。甲。が。家。を。為。を。寓。せ。一。年。あ。り。り。を。り。伏。姫。の。り。灰。の。ゆ。ゆ
 え。く。八。房。の。犬。は。伴。は。富。山。の。奥。へ。り。ひ。り。安。危。存。亡。定。り。た。ら。し。と。



一言信と母と
伏姫深山に
音生に
伴はる

この故に母君ハおれおれ日小そひく。長死病者に外多と告げりのあるに
 久大痛覺くも敬勇た君失言多とも正しく夫人の息女とて畜生小伴を
 さららの人の口の外にわると多のいと朽を。件の犬は靈憑と神通とあるに
 秘小おれともあり。これ彼山よりけ登り八房の犬を殺して姫君を俱へて
 瀧田へ入るに金もけ賭格とても先非然りも入る疑ひなり。とこそ
 却ら尋思ん叔宿のあるにゆ心形あやうく社系とて実一かみのひこ
 ら久竊に安房へ立入るも。准佑のも銃引提つ。富山の奥小こけ入りて伏姫の
 あり所在を其知る是知ると素れ山路小暮。山路小明と。五六日を経たれ無
 ちた谷川の向ひ入るとおぼし。とてやと騒ぐ曾を能く。水際よ
 つのぬつくとおれの女子の経緯む声いとも幽小おえけり。
 作者云この辰八犬士の起るべし所以成とてく演記して筆集五巻の尾と

定め既首巻小十回の題目を載るとりども。あはよあはよおぼろのく
 ちくちのまらふ巻の張数とも盈る。今この辰を率成ふらほむ巻数は
 定めあり。又張数ゆも限りあり。毎編とて成るに及べぬの賣買の便宜
 ありとてといふ書肆がゆも推辞がして下るも餘稿の巻を更る。明年かたのま
 嗣出さん大約十回は演るべし。この小説の發端のまこと下り八犬士の中
 世不出るる不及べし。この後又年次歴々八子八方ははせし。聚散時あり
 約束ありて竟の里見の家臣とある八人の列傳の前後あり長短あり。
 ちく其れちくちく致果とて年次をかき終て全本とて成る。あはよ
 曇ふ予が著しとてし張月の如くたうべし。閱者幸小察せよ。時小文化
 甲戌の秋九月十七日鳥の屋小毫を閑く

南德里見八犬傳卷之五 終

